



GENIAC-PRIZE

テーマ 1 社会課題説明会

2026年6月12日

主催



NEDO Challenge

協力



農林水産省

本日のアジェンダ

13:00-13:05 オープニング

13:05-13:10 懸賞金事業の概要説明

13:10-13:20 GENIAC-PRIZEの概要説明

13:20-13:45 テーマ・課題のご紹介

13:45-13:55 特設サイトのご紹介

13:55-14:00 クロージング

14:00-14:15 QA

本日のアジェンダ

13:00-13:05 オープニング

13:05-13:10 懸賞金事業の概要説明

13:10-13:20 GENIAC-PRIZEの概要説明

13:20-13:45 テーマ・課題のご紹介

13:45-13:55 特設サイトのご紹介

13:55-14:00 クロージング

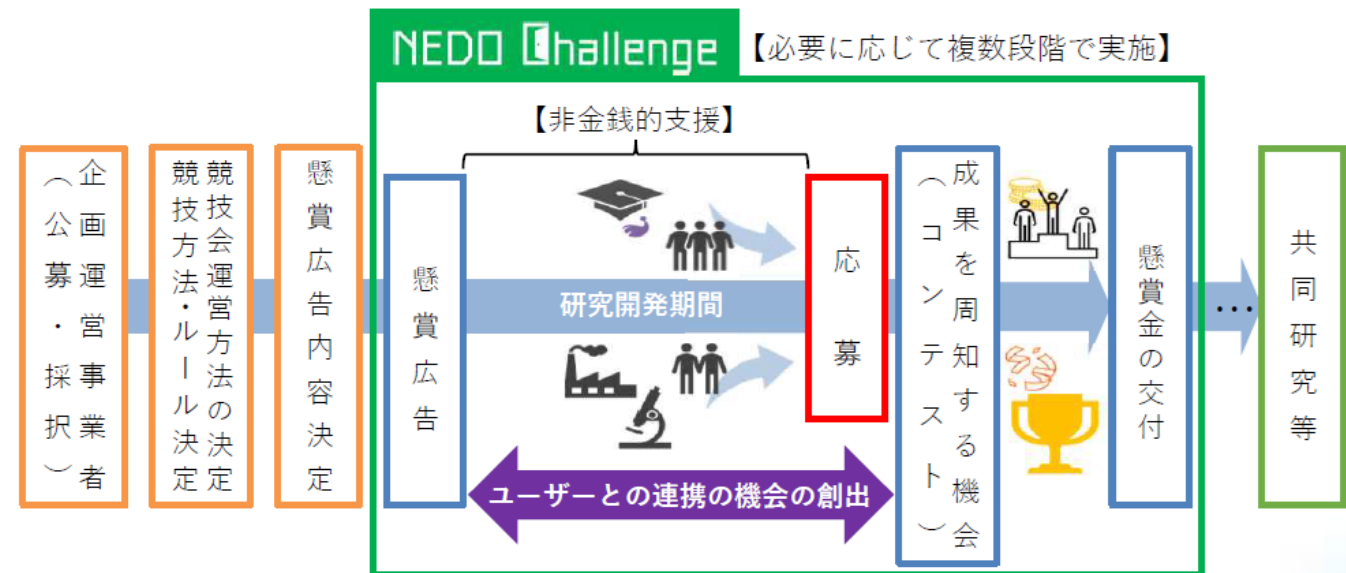
14:00-14:15 QA

NEDO懸賞金活用型プログラム

NEDO Challenge

近年、多様化する技術・ニーズ・価値観によって社会課題は複雑化しています。このような課題を解決していくためには、多様な主体から多様な知恵を集め、これらを融合・競争させ、得られた結果を研究現場にフィードバックすることを可能にする取組を強力に進める必要があります。また、イノベーションを創出し、その恩恵を社会課題の解決によって国民や社会に還元していくためには、これまでにない新しい技術を社会実装に至らしめるための適切な方策を推進することも重要です。

NEDO懸賞金活用型プログラムでは、技術課題や社会課題の解決に資する多様なシーズ・解決策を「コンテスト形式」による懸賞金型の研究開発方式を通じて募ることにより、将来の社会課題解決や新産業創出につながるシーズをいち早く発掘することで、懸賞広告応募者と当該シーズのユーザーとの連携の機会を創出します。



本日のアジェンダ

13:00-13:05 オープニング

13:05-13:10 懸賞金事業の概要説明

13:10-13:20 GENIAC-PRIZEの概要説明

13:20-13:45 テーマ・課題のご紹介

13:45-13:55 特設サイトのご紹介

13:55-14:00 クロージング

14:00-14:15 QA



GENIAC-PRIZE (NEDO懸賞金活用型プログラム) の概要

「GENIAC-PRIZE」では、NEDO懸賞金活用型プログラム (NEDO Challenge) の制度を活用し、AIによる解決が望まれるテーマに即した具体的なニーズに基づくAIサービスを開発・実証・応募いただき、審査を経て成果に応じた懸賞金を授与します

AIは、第4次産業革命の起爆剤



AI先進企業は、ヒト・AIの役割から抜本的に再設計し、ビジネスモデル変革

～AI導入フェーズ

既存業務を効率化するためにAIを一部補助的に活用するビジネスモデル



人を中心に
構築された
コアプロセス

+



補完するもの、
AIを含むデジタル
ツール

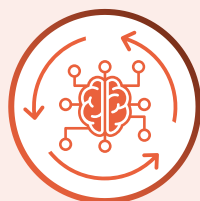
主な特徴

- AIは業務効率や支援に使われるが価値創造の中核業務は担っていない
- デジタル強化の延長として活用される段階

AI先進企業

AI拡大フェーズ

AIを組み込んだプロセス設計が進み、価値創出に向けて人をAIが補完する"共創型" ビジネスモデル



AIエージェントと人が業務を分担

+

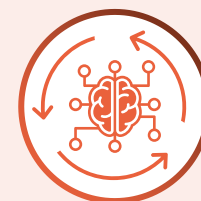


主な特徴

- AIエージェントが業務プロセスの中に入り始める
- 人がAIエージェントが業務を分担し協働

AI駆動フェーズ

AIを企業活動の中核に据え、業務プロセス・組織構造・意思決定・提供価値がAIを前提に設計されている"AI駆動型" のビジネスモデル



AIエージェントを
中心に構築された
コアプロセス

<



補完するのは人

主な特徴

- 意思決定や業務プロセスAIを前提に設計されている
- 組織構造・人材配置・インフラもAI起点で再構築済み

GENIAC事業で目指す開発力強化と社会実装をより全国的、 かつ継続的に広げる

GENIAC-PRIZEの目的

開発力強化



国産モデル開発

- ・汎用、領域特化、マルチモーダル等の50超のモデルを開発



開発ノウハウ

- ・汎用能力の向上に加え、領域特化、マルチモーダルに求められる開発ノウハウを蓄積



人材

- ・実開発を通じ、500名超のモデル開発者を育成



社会実装

プレゼンス向上

- ・GENIACの取組を広くメディア・イベントで発信、国産モデルのプレゼンス向上



ステークホルダーの巻き込み

- ・アプリ・ユーザー企業、計算資源提供企業、VC等も巻き込んだコミュニティ構築



業務への実装

- ・実証や実利用が進展



より全国へ
継続的に
広げる

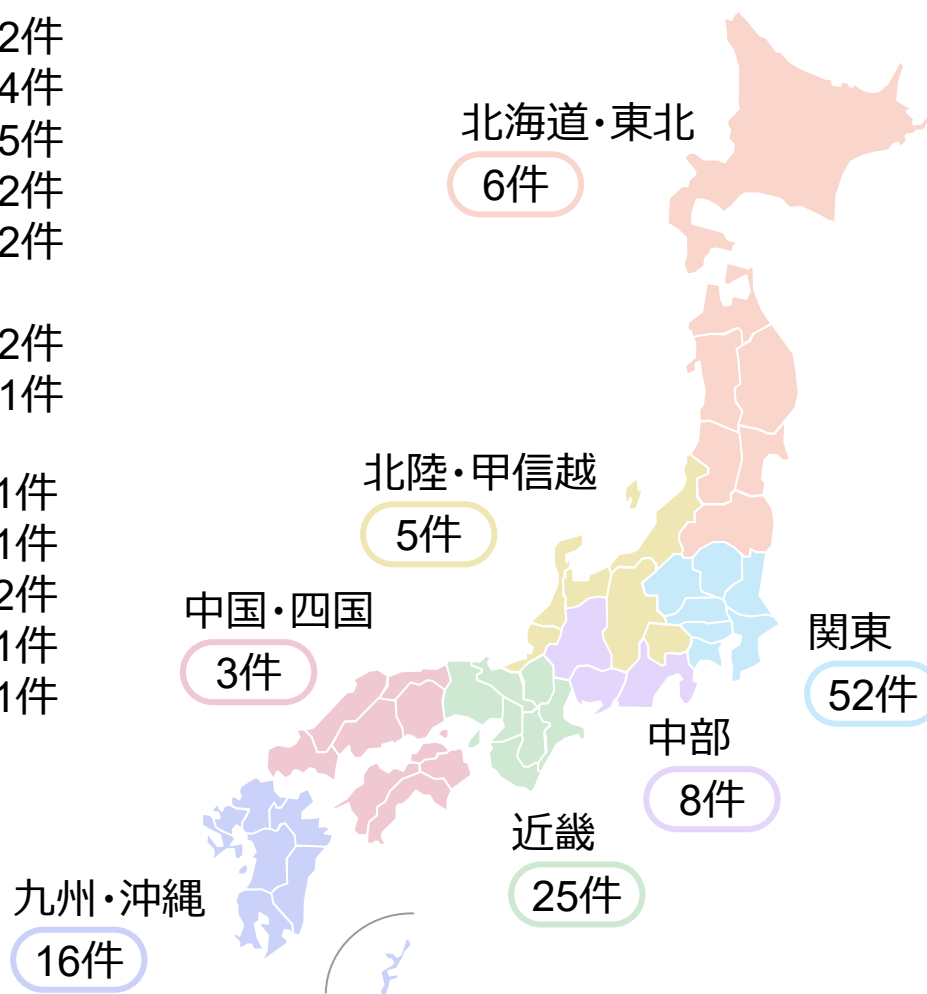
テーマに即したAIサービスを開発・応募いただき、成果に応じた懸賞金を授与するコンテストを実施



全国から多数応募を受領

昨年社会課題テーマの応募

北海道	2件	大阪府	12件
宮城県	2件	京都府	4件
福島県	2件	兵庫県	5件
		滋賀県	2件
富山県	3件	三重県	2件
新潟県	2件		
		広島県	2件
東京都	45件	岡山県	1件
神奈川県	2件		
埼玉県	2件	福岡県	11件
千葉県	1件	長崎県	1件
茨城県	1件	熊本県	2件
群馬県	1件	宮崎県	1件
		沖縄県	1件
愛知県	6件		
静岡県	2件		



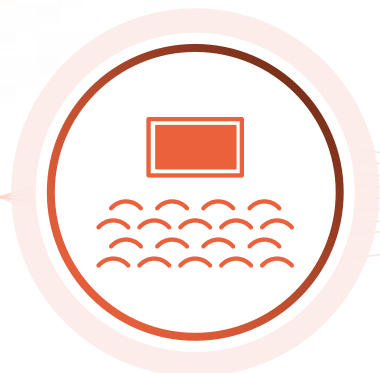
製造業

カスタマーサポート



全国への社会実装を実現

GENIAC-PRIZEを通じて得られた成果を効果的・効率的な打ち手で波及させ、
全国へ継続的に社会実装を加速



表彰式発表会

ビジネス拡大の契機を目的に
ディアやターゲットユーザー、
投資家に対し懸賞金事業を通じて
得られた成果をアピール



成果発表キャラバン

ユーザー企業が多く、情報発信の
起点となる都市で対面展示会を
開催、サービスを試用・体験できる
形式でビジネスマッチングを促進



成果のカタログ化

全国のユーザー企業に成果を周知
するため、AIサービスをカタログ化し、
各地域へは紙媒体で配布、特設
サイトへはデジタル版を掲載



オフライン・オンラインの打ち手を通じてGENIAC-PRIZEの成果を対外発信し成果を波及

表彰式は、TV放映・各社PR・SNS拡散・YouTube再生等が実施され、マス層に成果波及を実現



メディア (テレビ放映等)

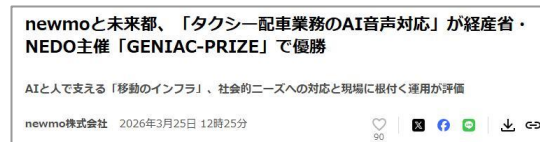
表彰式終了後のテレビ東京 (WBS) では、製造業1位・CS1位特集を含め、3分程度放映



各企業のプレスリリース

計10-20件の受賞企業がプレスリリースを発表

- ダイキン、未来都/newmo、JDSC、JTB/カラクリ、NanoFrontier、NTT西日本等



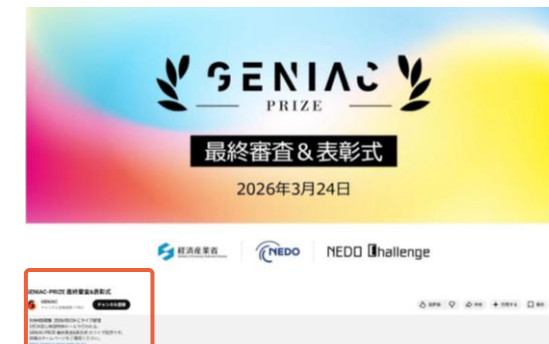
SNS拡散

登壇者による自発的なSNS発信が広がり、表彰式当日のツイートは計100件に到達¹



Youtubeアーカイブ再生数

Youtube配信のアーカイブでは再生回数が約1万回を実現 (6/4木 時点)



1. 表彰式当日 3/24火 から3/26木早朝までのツイート数を計測

成果発表キャラバンは、各地で100名超え、東京では約260名が来場され、満足度の高いコメントも頂戴した

成果発表キャラバン開催報告

XX : 参加者

3/31 (火) 大阪

105名



4/3 (金) 名古屋

117名



4/8 (水) 博多

109名



4/15 (火) 東京

259名



“

展示会以上に開発者と直接コミュニケーションができる機会が持てた

改めて地域の伝統技術の承継の課題を認識するとともに、AIがその課題を解決する大きな可能性であることを認識しました

GENIAC
PRIZE
2026



本日のアジェンダ

13:00-13:05 オープニング

13:05-13:10 懸賞金事業の概要説明

13:10-13:20 GENIAC-PRIZEの概要説明

13:20-13:45 テーマ・課題のご紹介

13:45-13:55 特設サイトのご紹介

13:55-14:00 クロージング

14:00-14:15 QA

今年度のテーマ

懸賞金規模

テーマ1 社会課題

エッセンシャルワーカーの人手不足解消に
資するAIを活用した業務プロセス改革

- ユースケースの開拓・利活用を推進し、
エッセンシャルワーカーの人手不足解消に
資する開発と実証を促進する

総額6億円

本日の
説明

テーマ2 人材育成

フィジカルAIに向けた開発者育成 (学生) の
ための公開型の基盤モデル開発

- 計算資源利用が難しい学生のモデル
開発経験を通じて、日本全体の技術
レベル向上に繋げる

総額約0.3億円
(他計算リソース 等:
約4億円相当)

社会課題をテーマとした事業では、**エッセンシャルサービス業※**における**人手不足の課題解消に資する提案を全国から広く募集し、AIを活用した業務効率化や負担軽減に資するシステムの研究開発・実証提案、センサーやロボティクス等のフィジカル技術との連携も含む業務プロセス全体最適化を期待します。**

※エッセンシャルサービス業とは、人々の生活に不可欠な物品又は役務を供給する業務と定義し、エッセンシャルワーカーとは、エッセンシャルサービス業の従業員と定義します

課題名 | エッセンシャルワーカーの人手不足解消に資するAIを活用した業務プロセス改革

課題の内容

現場業務における人手依存の高い作業の効率化・高度化が課題

- 急速な少子高齢化による生産年齢人口の減少がエッセンシャルサービス業の人手不足を深刻化、経産省試算では最大76兆円規模の経済損失リスクがある
- 一方で、エッセンシャルサービス業におけるAIの活用は依然として十分に進んでおらず、生産性向上や付加価値創出の余地が大きい

✓ 総額6億円を
授与予定

✓ 審査員特別賞は
総額3億円程度

- 協力省庁特別賞
 - 4省庁×5,000万円
 - 各省庁が受賞企業へのインセンティブとして別途伴走支援等を用意
- 地域賞 等

エッセンシャルワーカーの人手不足解消に資するAIを活用した業務プロセス改革

生成AIを活用したエッセンシャルサービス業における人手不足の課題解消に資する提案を全国から広く募集します。

懸賞金

各順位に応じて懸賞金を授与予定です。



※詳細は別途公表予定

協力省庁のご紹介

GENIAC-PRIZE 2026では、4省庁が協力省庁として参画し、課題・テーマを提示しております



警察庁



厚生労働省



国土交通省

農林水産省

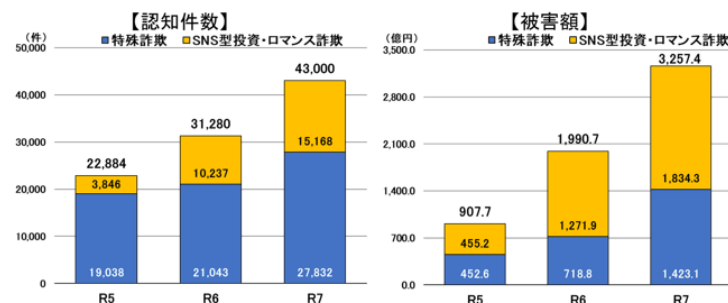
特殊詐欺への対応が課題です。AIを活用した対策高度化、被害抑止、対応負荷・コスト軽減を期待します

特殊詐欺対策に係るAI活用「GENIAC-PRIZE（NEDO懸賞金活用型プログラム）」

特殊詐欺被害の現状

- 令和7年中の特殊詐欺の認知件数は43,000件、被害総額3,257.4億円（1日当たり約9億円の被害）といずれも過去最悪の被害となり、極めて深刻な情勢。
- 特殊詐欺被害の深刻化に伴い、検挙件数・検挙人数も前年から増加。また、二セ警察詐欺をはじめ特殊詐欺の手口は日々巧妙化しており、国民から警察への被害相談も増加傾向。
- 官民が連携した被害防止対策に加え、民間企業も特殊詐欺の被害抑止のため様々なサービスを提供しているものの、特殊詐欺の被害の増加に歯止めがかからない状況。

特殊詐欺の認知件数及び被害額の推移



課題

- 特殊詐欺に対処するため、警察や通信・金融等の特殊詐欺の被害抑止に関わりのある業界の負担・コストが増加。
 - 被害者となる国民は犯罪被害に係る膨大なコストを担わされており、地方自治体や自治会等の国民に身近な幅広い関係機関・団体においても、広報啓発等の被害防止対策に係る負担が増加。
- ⇒ 特殊詐欺が治安対策上の最重要課題となっており、警察をはじめとする「国民の安全・安心」に関わる官民の様々な機関、団体、民間企業等の負担・コスト増加が課題

取組の方向性

- 官民双方で増加する特殊詐欺への対処に係る負担・コストを軽減するため、**AIを活用し、特殊詐欺対策を高度化することで、被害抑止を一層推進**する必要。
- 特に、犯人達の欺罔のテクニックは巧妙であることから、犯人からの電話やメッセージを直接受けないための取組として、**犯行ツール対策**を高度化する必要。



医療・介護分野では人材不足と業務負荷の増大が深刻化しています。生産性向上や負担軽減、サービス品質向上を期待します

医療・介護分野における A I 技術の活用

- 日本においては少子高齢化が急速に進展。85歳以上を中心とした高齢者数は2040年頃のピークまで増加する一方、全国的に生産年齢人口は減少。医療・介護ニーズの増大とそれを支える人材確保の課題の双方に直面。
- 医療分野では、地域毎の医師偏在も背景に、地域医療を担う医療従事者不足が生じているほか、個々の医療機関等における診断書作成等の事務負担が業務全体を圧迫。
- 介護分野では、2040年には約57万人の介護職員が新たに必要と推計。サービスの質の確保と生産性の向上を図るとともに、勤務環境の改善等により業界全体として人材確保を推し進める必要。

A I を活用することにより・・・

- 医療機関や介護事業所等における各種業務処理の大幅な負担軽減を図ること
- 効率的かつ質の高い医療・介護サービスの提供につなげることを通じ、上記医療・介護現場の課題解決に資することが期待

医療分野のユースケースの例

- 治療内容以外の患者照会・相談に A I が対応
- 病棟の状況 (※) を踏まえ最適な看護配置を A I が提案
※入院患者の人数・年齢構成、重症度、オペ・検査件数、看護職員の経験年数・習熟度等
- 院内各データから退院時サマリや紹介状を A I が作成
- 地域医療の確保、報酬改定や財務状況等も踏まえ最適な経営プランを A I が提案 ※ P 2 にその他の例を記載。

介護分野のユースケースの例

- 利用者とのやりとり音声を用いケア記録素案を A I が作成
- 見守りセンサーデータから体調変化兆候を A I が把握・職員に伝達
- 適切な食事・排泄等の生活プラン素案を A I が提案
- 訪問介護のスケジュール素案を A I が作成
※ P 3 にその他の例を記載。

建設・インフラ分野の担い手確保が課題です。AI活用による生産性向上・管理の高度化を期待します

建設・インフラ分野でのAI活用



建設・インフラ分野が直面する課題

担い手・市場の課題

・技能労働者の高齢化と若年入職者の減少

・社会インフラの老朽化と維持管理体制の限界

・災害激甚化・頻発化による広域・迅速対応の必要性

・中小建設業者でのAI導入の負担感

技術・現場の課題

・屋外等の環境での移動技術の確立、現場ごとに異なる作業操作技術の高度化

・熟練技術・技能のデータ化基盤の未整備、一品生産ゆえのデータ蓄積の困難さ

・行政・現場データのAI-Ready化の未整備

制度・人材の課題

・自動施工・AI点検の出来形・品質・安全管理等の基準や責任分界点などのルールが未整備

・AI・ロボットを工程に組み込める実装人材の不足

・発注者/管理者側のAIガバナンス人材の不足

・中小事業者を支える地域支援体制の充実

行政使命としての3つのアプローチ

① 発注者・管理者の生成AI徹底活用

・AIで現場データに基づく迅速な意思決定を支え、監督検査、発注事務、予算管理等をAIで効率化

・土木構造物に加え、ポンプ・ゲート等インフラ機械設備の異常検知、劣化予測でのAI実装を推進

・AIを駆使し、方向づけや最終判断を担う職員の育成、体制づくり

・全国の自治体・中小事業者への横展開支援

② 産学官協働のAIデータ連携基盤

・「国土交通データプラットフォームMCPサーバー」等のデータ連携基盤整備を推進し、民間企業やスタートアップ等の開発を促進

・建設・防災・物流など幅広い分野での利活用を促進し、研究機関等と連携したAI用データの蓄積・標準化・オープン化を推進

・現場データに紐づくAI開発により地域課題解決に資するユースケース、ビジネスモデルの創出

③ フィジカルAI等による現場自動化実装

・土工・舗装等の建設施工を段階的に自動化（OPERA活用）

・熟練技術・技能をデータ化するとともに、作業データや現場データの形式・ルールを標準化することによりAIによる学習環境を構築

・制御信号、データ形式、セキュリティガバナンス等の協調領域を整備し、国が共通基盤（OPERA等）を整備し民間開発を促進

具体的なプロジェクト例

共通基盤・標準化整備

・制御信号、データ形式、セキュリティガバナンス等の協調領域の整備

・競争力強化につながるAI-Ready化された共通基盤の整備

施工自動化・ロボット実装

・土工中心に自動施工を段階的に実装

・レトロフィット技術や複数建機の協調制御、学習検証環境の整備

・ドローン、ロボット等の災害対応活用

熟練技術・技能の継承・形式知化

・ベテランの判断、手順をセンサ、映像から施工データ定義集として体系化

・AIによる手順や判断の支援から反復作業の自動化へ段階的に移行

・次世代技術者育成プログラムへ展開

行政・発注者のAI業務改革

・技術基準等のRAG参照を定着させるなど発注実務や監督検査の迅速化、官民双方の書類・手続き負担を軽減

・AI人材の育成・体制づくりを推進し、有用事例を自治体・地方整備局等へ横展開

AIデータ連携環境構築

・インフラデータをMCP/APIで利活用

・デジタルツイン・リスクシミュレーション等の促進

・大学・研究機関等と協力し、AI学習環境、評価基盤を整備

・オープンイノベーションで産業全体を底上げ、地域課題解決AIモデルの開発・実装

AI活用で目指す姿

#「省人化」と「質の高い社会資本・公共サービス」の両立

#地域インフラを守る持続可能な建設産業

#中小事業者も恩恵を受けられる産業構造

#熟練技能の継承と次世代技術者の育成

#人とAI・ロボットが協働する現場の実現

建設・インフラ分野の担い手確保が課題です。AI活用による生産性向上・管理の高度化を期待します

国土交通省インフラ分野でのAI実証例（募集対象）



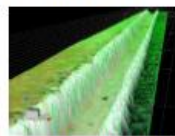
- R8年度GENIAC-PRIZE（懸賞金活用型プログラム）における国土交通省インフラ分野の実証対象領域として、インフラマネジメント、国土強靱化に資する取組を幅広く募集。

募集対象領域(取組例)

■ 現場施工 (自動施工、工程・施工管理など)



施工の高度化



点群データの活用

■ 維持管理 (巡視、点検、異常検知など)



河川巡視



点検業務

■ 災害対応 (現地調査、衛星利用など)



現地調査



被災状況把握

■ データ連携 (デジタルツイン、シミュレーションなど)



データプラットフォーム



リスクシミュレーション

■ フィジカルAI (技術基盤、安全確保など)

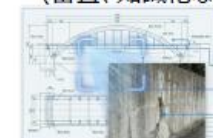


データ技術基盤



危険作業

■ 行政実務 (審査、知識化など)



図面審査



データ構造化・知識化

「現場施工」「維持管理」「災害対応」「データ連携」「フィジカルAI」「行政実務」など国土交通省インフラ分野において、インフラマネジメント、国土強靱化の観点から以下のいずれかに該当する取組であること。

1. 多様化する国民ニーズに的確に対応した質の高い社会資本・公共サービスを実現し、豊かな国民生活と日本の持続的な成長を牽引する取組
2. 防災や公共インフラなど「日本の強み」である現場に通じたデータ整備・活用を推進し、新たなビジネスモデル等を構築する取組
3. 業務プロセスの改革も視野に入れ、技術開発・現場実証を推進する取組

食料の安定供給や農林水産・食品産業の持続的な発展が課題です。
農山漁村の活性化に寄与する取組を期待します

エッセンシャルワーカーの人手不足に対する農林水産業、農山漁村でのA I活用

1

エッセンシャルワーカーの人手不足に関する農林水産業、農山漁村の課題

- 農山漁村において、農林水産業等の従事者（＝エッセンシャルワーカー）が減少する中で、生産活動環境及び生産性の低下により、農林漁業による所得の確保の課題が生じ、生活環境の維持が困難となる等の課題が生じている。
- このため、食料安定供給や多面的機能の発揮に支障が生じることが懸念される。

農林水産業等の
従事者の減少
(エッセンシャルワーカー)

生産活動環境及び
生産性の維持困難

新規従事への躊躇
生活環境の維持困難

農林漁業による
所得の確保に課題

上記課題への対応

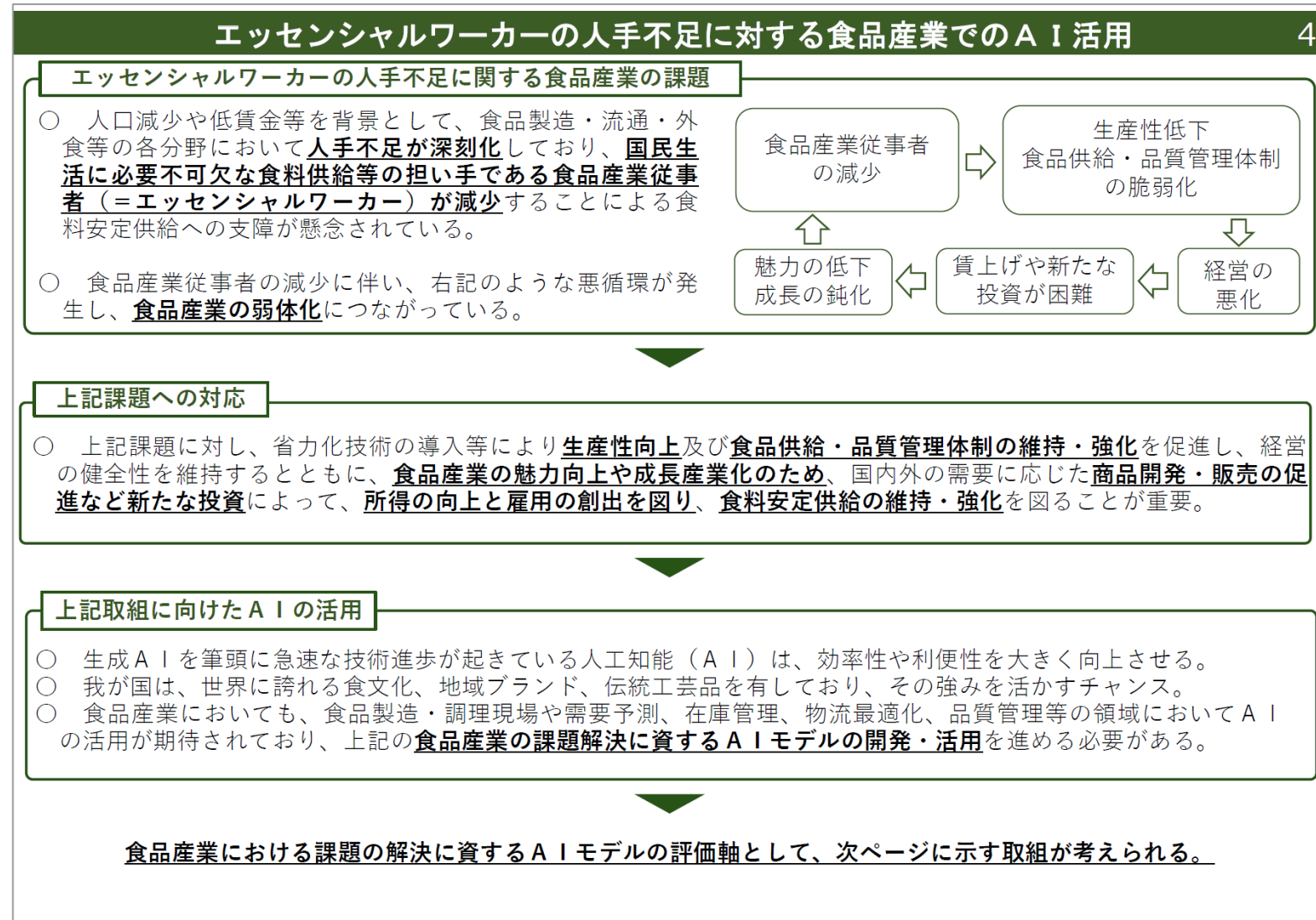
- 上記課題に対し、A I等の先端技術の呼び込み等により生産性向上を図り、人口減少下の農業生産基盤の維持・強化を促進するとともに、農山漁村に人を呼び込むため、多様な地域資源を活用した付加価値向上による所得の向上と雇用の創出を図り、農山漁村インフラの確保や地域機能の維持等の農山漁村環境の維持を促進することが重要。

上記取組に向けたA Iの活用

- 生成A Iを筆頭に急速な技術進歩が起きている人工知能（A I）は、効率性や利便性を大きく向上させる。
- 我が国は、世界に誇れる食文化、地域ブランド（農林水産物）等を有しており、その強みを活かすチャンス。
- 今後、農山漁村においてA Iを活用し生産性の向上等に取り組んでいる事例を創出するため、地域課題解決に資するローカルな情報を活用するA Iモデルを開発し、地域で実装していく必要。

地域課題の解決に資するA Iモデルの評価軸として、次ページに示す取組が考えられる。

食料の安定供給や農林水産・食品産業の持続的な発展が課題です。
農山漁村の活性化に寄与する取組を期待します



- 日本国内の法人、団体および農業・林業・漁業経営体 (個人を含む)
- ただし、**応募者はユーザーであることを条件**とします。ユーザーが必要に応じて開発者 (AI開発者やAI提供者、個人を含む) と組んで応募することも可能です

パターン① ユーザー企業と開発者が組む

ユーザー企業



開発者



パターン② ユーザー企業のみで応募

ユーザー企業 (自社開発 等)



本事業では、国産基盤モデルを活用しないAIシステムの応募も可能とします
ただし、**開発・実証においては、いずれかの国産基盤モデルの活用を必須**とします

※ロボット基盤モデルを除く

上記要件 の理由

- ・ 国産基盤モデルの開発・実証を通じて、その実運用環境における活用を推進したい
- ・ 国産基盤モデルの普及を図ると同時に、その過程で得られる知見やフィードバックを国産基盤モデル開発事業者還元することにより、国産基盤モデル開発の一助としたい

国産基盤モデルとは、以下2つを満たしているものを国産基盤モデルとします

1. 日本国内で登記されている、かつ、日本国内に開発拠点を有する企業・大学等が開発したモデル
(国産基盤モデル開発事業者リストをご参照ください)
2. フルスクラッチモデル、既存の基盤モデル (国産基盤モデルに限らない) を追加学習したモデル、
国産基盤モデルをファインチューニングしたモデル

※特設サイトで国産基盤モデル開発事業者リストを今後公開します

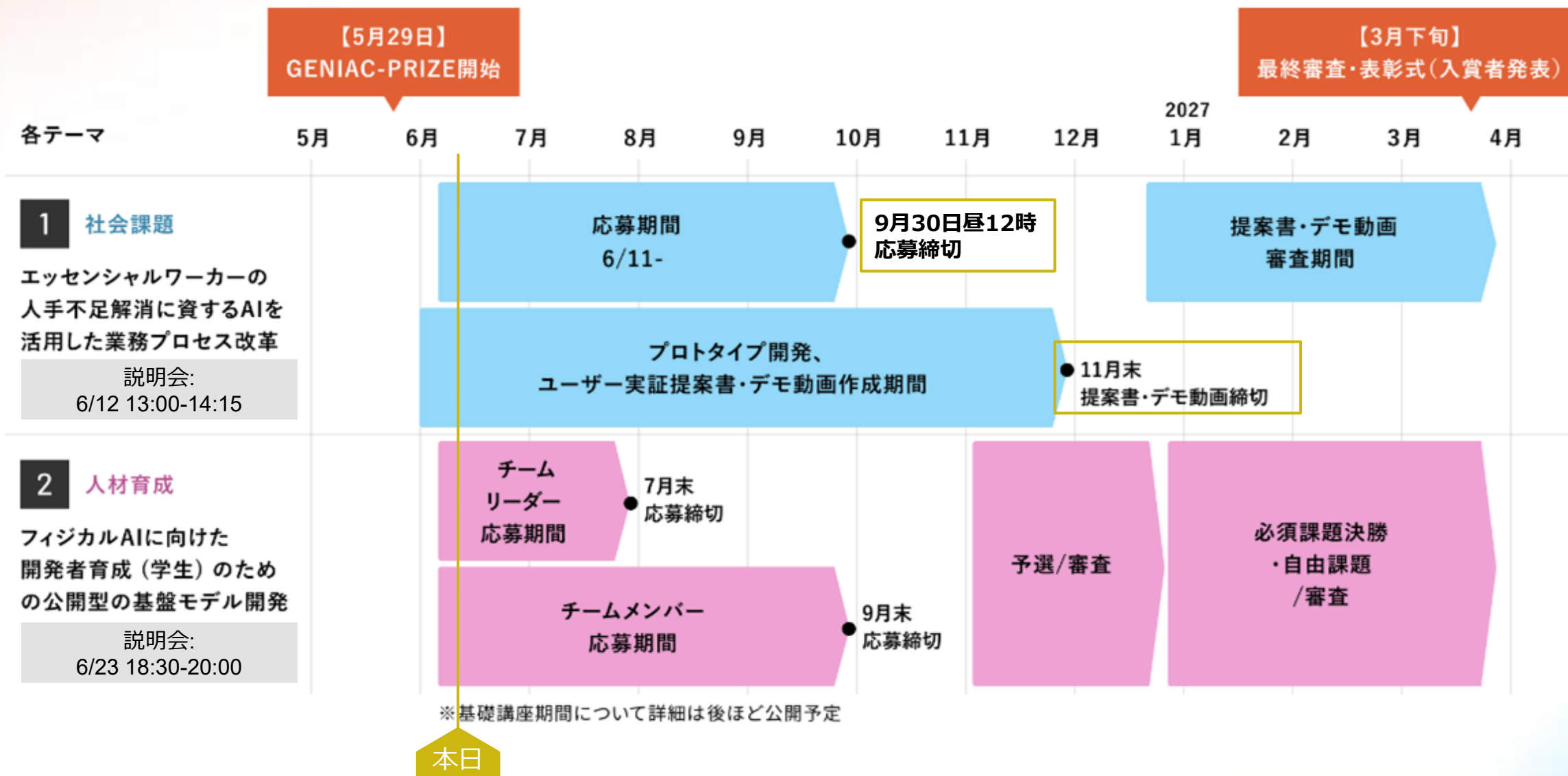
応募者は、取組概要およびAIシステムの開発・実証成果を提出します

成果物は提案書およびデモ動画とします

提出期限	項目	主な内容	提出方法
26年9月30日 昼12時	• 取組概要 (指定フォーム)	• 取組予定の内容 • 利用する基盤モデル • 取組体制 (ユーザー、開発者) 等	特設サイトの応募フォームで 提出
26年11月末	• 提案書 • デモ動画	• ユースケース • ユーザーにおける変革内容 • AIシステムの開発内容 • 実証結果 等	事務局から別途ご連絡する 応募フォームにて提出

審査項目	審査内容
課題設定の妥当性	人手不足解消や生産性向上に寄与し、当該分野の課題の解決に資する取組か
業務の再設計・ 導入効果	ユーザーの業務プロセス改革が、効果的且つ継続的に実施できているか - 事業部門・情報システム等関係部門の連携が有機的に行われているか - 課題に直結したユースケースかどうか - 業務構造を理解し、業務プロセスの再設計が適切にできているか - AI開発に関する知識・ノウハウがユーザー内に蓄積され、組織内で有効に活用されているか - システム導入後も継続的な改善が可能な体制や仕組みが構築されているか - 導入インパクトが定量/定性的に示せなかったとしても課題の乗り越え方が明確になっているか
ユースケースの 波及効果	- ユーザーの現状の業務やシステムを分析し、具体的且つ実現可能なユースケースが設定できているか - またユースケース実現のための課題設定が適切であるか - コスト対効果を考慮し、生産性向上等大きなインパクトを与えるか。他企業に参考になり、業界全体に対してインパクトを持つか - 各テーマの取組領域において、優れたモデル事例/失敗事例として他地域や他事業者に横展開可能なユースケースか
技術の優位性	- 技術的革新性があり、既存のサービスや競合他社に類似するものがないか - プロトタイプのパフォーマンス (回答精度、速度、安定度、ユーザビリティ) が優れているか - ユーザーからのフィードバックを反映する技術的な仕組みが整っているか - 単一のモデルの評価にとどまらず、外部ツールや複数モデルを組み合わせたAIシステムの多段階評価がおこなわれているか
国産基盤モデル開発 への貢献	国産基盤モデルの利活用の推進にとって有益なフィードバックがあるか ※ 本項目は、事務局から国内基盤モデル開発事業者にフィードバックする。その際、情報提示元の応募者名は、応募者の希望があれば匿名とする

事業スケジュール



地域説明会

日時	地域	会場	開催形態
06/24 (水) 11:00-12:30	愛知県	STATION Ai	個別説明会
07/08 (水) 14:00-16:00	大阪府	QUINTBRIDGE	
07/09 (木) 16:40-18:00	京都府	第八長谷ビル	
07/10 (金) 14:00-15:00	福岡県	北九州メッセ	課題解決EXPO への出展
07/22 (水) 10:00-17:00	北海道	アクセスサッポロ	北洋銀行ものづくり サステナフェアへの 出展
7月以降	宮城県、 富山県	TBD	



本日のアジェンダ

13:00-13:05 オープニング

13:05-13:10 懸賞金事業の概要説明

13:10-13:20 GENIAC-PRIZEの概要説明

13:20-13:45 テーマ・課題のご紹介

13:45-13:55 特設サイトのご紹介

13:55-14:00 クロージング

14:00-14:15 QA

下記QRコードからアクセス可能です



詳細は特設サイトへ ▶

<https://geniac-prize.nedo.go.jp/>

本日のアジェンダ

13:00-13:05 オープニング

13:05-13:10 懸賞金事業の概要説明

13:10-13:20 GENIAC-PRIZEの概要説明

13:20-13:45 テーマ・課題のご紹介

13:45-13:55 特設サイトのご紹介

13:55-14:00 クロージング

14:00-14:15 QA

**GENIAC-PRIZE 運営事務局
までご連絡をお願い致します**

geniac_prize@bcg.com

経済産業省、NEDOへの電話によるお問い合わせは受け付けておりません

